

1 学校教育目標

「夢実現 ～可能性への挑戦～」

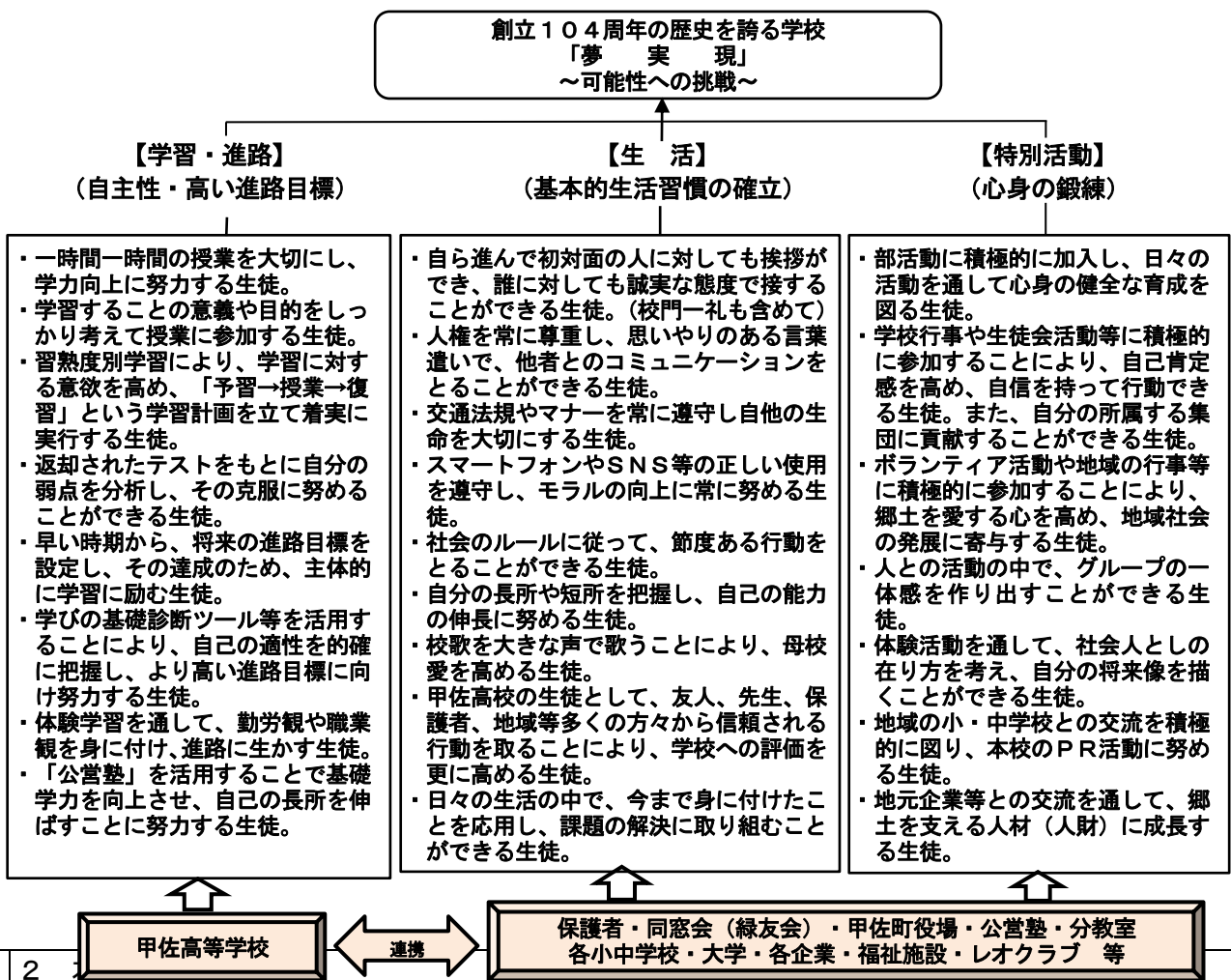
ア 教育方針

- (ア) 県教育委員会関係課から出されている「令和6年度教育指導の重点及び取組の方向」を基本に、本校「五綱領」を踏まえ、社会に貢献する生徒の育成をめざす。
- (イ) カリキュラム・マネジメントを推進し、チーム学校の一員として、生徒・職員・家庭・地域一体となつて、活気ある学校づくりを目指す。

イ 教育目標

- (ア) 健全な心身の育成
 - ①学校の教育活動全体を通して、人権尊重、道徳を含む生徒の心身の向上に努める。
 - ②体験学習・ボランティア活動を通じて、人を思いやる心(怒の心)や、奉仕する心を育てる。
 - ③部活動を活発化させ、行動力、協調性、社会性を磨く。
 - ④教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育の徹底を図る。
- (イ) 学力向上と進路指導の充実
 - ①一人ひとりの学力や個性に応じた「参加する授業」を工夫し、自ら学び考える力を育成する。
 - ②面談やLHR等を通じて、将来の進路目標を早期に設定できるように援助し、キャリア教育の視点から自己実現に取り組ませる。
- (ウ) 地域社会と連携した学校づくり
 - ①一人ひとりの活動する機会を工夫する。
 - ②地域社会との連携を通して、あいさつやマナー等基本的な生活習慣を身につけさせる。
 - ③地域と連携した教育実践を更にすすめる。
 - ④創立百周年の記念事業を終え、今後も地域の方々に来校いただく機会を増やすことにより、学校、生徒理解につなげ、信頼される学校づくりを目指す。
- (エ) 郷土を支える人材(人財)の育成
 - ①地域の方々と触れ合う機会を通して、郷土への理解を深めると同時に、郷土を愛する心を育てる。
 - ②地域創生の観点からも、将来的に地域の経済社会を担っていく人材、ひいては、組織の中で必要とされる人的な財産としての人財を育成する。

ウ 熊本県立甲佐高等学校の目指す生徒像



ア 基本的な生活習慣の確立

- (ア) 正しい言葉遣い、爽やかなあいさつを身につけさせ、社会に適応する力を育てる。
- (イ) 時間を厳守し、遅刻や欠席のない生活習慣や身だしなみを確立する。
- (ウ) 交通マナーやSNS等、社会のルールに対する規範意識を高めさせ地域を支える人材を育てる。
- (エ) クラスや地域に貢献し、甲佐高校生として自覚と誇りを育てる。

イ 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導

(ア) 「授業力」の向上

生徒が主体となる授業の工夫を重ねるための授業研究、公開授業を活用する。また、生徒からの授業評価を日々の授業の実践に生かす。

- (イ) 個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。
- (ウ) 夢実現のため図書館や進路指導部等の活用をすすめる。
- (エ) 日々の教育活動を通じて生徒理解に努め、共通理解を図る。

ウ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成

- (ア) 部活動や委員会活動等への積極的に参加できるよう運営や時間を工夫し、教育活動全般を通じて人権教育、道徳教育を行う。
- (イ) 学校行事、ボランティア活動などを通じて、自ら考え、自ら行動できる生徒に育て、将来的に郷土を支える人材（人財）を育成する。

エ 地域と連携した教育活動

- (ア) 広報活動や学校運営協議会（総合型コミュニティスクール）等を通じて、地域社会に対し本校教育への理解と協力を深める。
- (イ) 保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに地域社会、特に小・中学校との連携を深める。
- (ウ) 職員の中学校別担当制を更に充実させ、中学校へのPR活動等を強化することにより、入学者増を図る。
※熊本スーパーハイスクール（KSH）構想のクリエイティブハイスクール、スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、地域連携・協働による教育活動に誠意をもって丁寧に取り組み、更なる充実を図る。

オ 言語環境の整備

- (ア) 学校生活全体を通じて、言語に関する理解や関心を深め、言語環境を整えるとともに総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養う。
- (イ) 図書館の充実を図る。

カ 教育相談体制の充実

- (ア) 全ての教育活動を通して、生徒理解と実態把握に努め、心の教育の充実を図る。
- (イ) 各校務分掌や教職員間の情報共有を図り、いじめの早期発見や対応、特別な配慮を要する生徒への対応等、教育相談体制を更に充実させる。
- (ウ) 中高連携を更に充実させ、生徒を支援する組織力を高めると共に、日々の学校生活に有用感や達成感等を得させ、進路変更を減少させる。

キ 防災教育の徹底

- (ア) 平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨水害を教訓とした防災教育の充実を図る。
- (イ) 地域社会、関係機関等との連携を更に図り、風水害等の災害に適切に対応する防災体制を強化する。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	魅力ある学校づくり	自ら気付き考え行動する生徒の育成 主体性と協調性を兼ね備えた生徒の育成	・学校行事等に自ら主体的・協働的に参加する	・全ての学校行事に生徒を中心に創造的な企画と運営に取組ませるよう指導する。 ・学校行事での役割分担と協力体制を明確にし、生徒一人ひとりが達成感を味わえるようにする	A	・学校行事において諸アンケートにおいて満足度の高い結果を得た。

	<p>探究的活動 ・ボランティア活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら主体的積極的に体験することで、奉仕や勤労、人の心や命を大切にし人権を尊重する心を育むと同時に、この活動を自己の進路目標に役立てる ・魅力企画・発信委員会と探究活動委員会、学科をととした活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の地域探究活動、2年生のインターンシップ、ビジネス情報科の地域特産物販売、福祉教養コースの施設訪問等を行い、文化祭での発表、学びの祭典での発表や展示をおこなう ・年度末にアンケートを実施し、目標の達成度を確認する ・校外でのボランティア活動に生徒一人一回以上は参加させる 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新委員会、学科、コースで計画した活動を実施し新しい発見とともに自己の進路に役立てることができた。 ・ボランティアを含め、町や地域の企画に参加する機会を多く得て、生徒の学びを深めることができた。
	<p>部活動や生徒会活動委員会活動の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して活発に活動する部活動や生徒会活動・委員会活動の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動力、協調性、社会性を学び人格形成の場とする ・しっかりとした活動計画を立て、安全で楽しく学べる部活動とする ・全生徒により作り上げる生徒会活動、委員会活動の指導を行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの部活動で国や県の指針に則った活動を行うことができたが、部活動の加入率が低調であった。 ・生徒会活動や委員会活動は本校生徒の主導的役割を果たした。
地域社会に根ざした信頼される学校づくり	<p>地域との連携・協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を深める事業の構築 ・公営塾（あゆみ学舎）への入塾者の増加（各学年10人以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会や関連した会議を通して、連携を深める ・公営塾（あゆみ学舎）との情報交換を適宜行い、生徒の入塾や企画参加を促す 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入塾者は12名程度であったが、あゆみ学舎との連携では、昨年度以上に密な交流を実施し、連携を深めることができた。また、塾長は学校行事や地域の活動にも参加し、生徒との交流を深めた。
	<p>保護者・地域等との連携と広報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の強化 ・本校のPR機会を増やし、入学者の増加に繋げる。 ・次年度の入学生45人以上、最低でも40人以上を目標とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの随時更新、「学校だより」の発行、広報甲佐への投稿による情報提供により、本校の教育活動を積極的に発信し魅力を伝える。 ・中学校を定期的に訪問する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの閲覧数が今年度も高い数値を得た。 ・広報甲佐に毎月記事を載せていただき、学校の様子を町民に伝えることができた。 ・高校入試の前期で31人が受験し、昨年同様30人を上回った。
	<p>緊急時対応の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル、緊急時対応マニュアルやすぐーを活用し危機管理対応力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応マニュアルを基に避難訓練や救急救命講習等を実施する ・大規模災害の発生を想定した対応訓練の実施 ・危機管理マニュアルの改訂と充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民とともに避難訓練を実施した。 ・全職員・全生徒で緊急救命講習を実施し危機発生時の動きを実践した。
	<p>新委員会の発足による業務の平準化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の推進を踏まえた校務運営の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した業務の効率化を図る ・毎月衛生推進委員会を実施し、勤務状況を把握、分析 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生推進委員会を毎月実施し、職員の健康状況の把握や情報共有を行い

	業務改善・働き方改革		<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の業務の偏りを少なくし、特定の職員に背負わせてきた負担を軽減する ・ 生徒との関わりの時間を確保し、生徒の不安や困り感を解消できる環境をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ し対応策を全体にアナウンスし個々に示す ・ 業務の見える化を全部署で行い、全職員で共通理解を図りながら校務を行う ・ 新委員会の機能を発揮し、本校の生徒募集に全職員に係る意識を高める ・ 生徒・保護者とのかかわりを丁寧に行い信頼関係を築き、将来の目標を設定し、その実現に向けて協働する 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務や個人の働き方の見直しを職員会議で周知した。その結果、昨年度並みの超過時間が低位で推移した。 ・ 新委員会で学校の活性化につながる業務を平準化することができた。 ・ 生徒一人一人の課題を校内研修や臨時の会議をとおして全職員が把握しながら指導を行うことができた。
		休暇を取りやすい職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議等の効率化と研修の効果化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事や定期考査時に会議や研修を入れない ・ 職員研修を朝会時や長期休業日間に実施し、タイムリーで効果的な研修にする 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度も考査期間中の午後の時間に休みが取れるように行事を入れないことや、長期休業中や長期休業明けに集中して職員研修を行った。効率の良い研修となった。
学力向上	授業力の向上	「分かる授業づくり」の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業の積極的な実施 ・ 公開授業の活発化 ・ ICT機器の活用 ・ 授業に対する生徒の受け止めの把握と改善 ・ 主体的・協働的・深い学びを主体にした授業の展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業週間の設定、積極的参観、地域・関係各所への案内 ・ 全ての授業による協働的学びの実施 ・ 授業評価アンケートの実施 ・ 教科会で授業の検討会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受検生の本校授業見学数が倍増したが前期受検生は昨年より減少した ・ 本校生徒が落ち着いた環境で学習に取り組んでいる状況を大切にし、授業研究できる環境を作ってきた。
		個に応じた分かる学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業理解についての肯定的評価を80%以上とする ・ 学習指導および評価が一貫した授業展開 ・ 個別最適な学びと協働的学びを両立させた授業の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導法、生徒理解情報の共有・身近な題材、体験的活動的な学習・常に観点別評価を更新する。 ・ TT実施の授業での個別指導だけでなく、全教科による個別の課題配付（指示）による授業外の指導の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業評価アンケートにおいて、授業わかるの回答が、85%以上であった。先生方の工夫の成果が見られた。

	学習に対する意欲・姿勢	自ら学ぶ意欲	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対して、自ら意欲的に取り組んだ体験を持つ生徒を100%とする ・自学力向上委員会によるスタディサプリを活用し自学力の向上につなぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の徹底、課題学習 ・将来（進路）につなげる学習指導 ・あゆみ学舎（公営塾）との連携 ・スタディサプリの利活用について個々への具体的指示と学ぶ意欲を引き出す 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒発表の場面が多くなり、自ら課題解決に向かう姿が目立った。 ・スタディサプリの使用が長期休暇中の学び直しと到達度テスト受験で終わった。何事も粘り強く成し遂げる習慣が課題である。
キャリア教育・進路指導	自らの可能性に挑戦し、進路目標の実現を目指す	自己実現に繋がる早期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の早期設定（3年次7月までに100%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点に立った進路学習の実施 ・進路ガイダンス等への参加 ・タイムリーな進路情報の提供 ・生徒による活動の振り返りの実施（2年次末から） ・2年次からの二者面談や三者面談の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は概ね早期に進路目標の設定ができていた。 ・2年生は、後半からの次年度に向けた対策を行い、次年度の準備としている。
		進路目標実現のための努力	<ul style="list-style-type: none"> ・就職・進学希望者全員の進路目標達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人票公開システム「ハンディ進路指導室」を利用した求人情報の提供 ・3学年や各教科との連携、情報の共有 ・個別学習指導の実施 ・進路ガイダンスや職場見学の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年に進学・就職に関する情報提要进行をこまめに行い、進路意識向上につなげた。 ・生徒それぞれの状況に応じた対応ができるよう、指導体制を整える必要がある。
生徒指導	個を尊重した生徒指導	基本的な生活習慣と言語環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適切な言葉遣いを育む ・授業への遅刻をなくす 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で、全職員が言葉遣いに対する指導の意識を強く持つ。 ・授業時間を守る指導の徹底 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOに応じた言葉遣いは今後も課題となった。 ・授業の遅刻は少なかった。移動教室や集会等への遅刻もほぼなかった。
		甲佐高校生としての自信と誇り	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動を未然に防ぐ ・生徒会主催行事の充実（体育大会、青垣祭） 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の未然防止のための職員間の情報共有及び保護者との連携 ・多様な問題行動に応じた公的な公共機関との連携した指導 ・昨年度の反省を生かした企画・運営 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導事案としての特別な指導件数は0件で減少したが、重大事案が発生し、警察にも通報し対応した。 ・学校行事は状況に応じた適切な開催ができた。
		携帯電話の危険回避と適切な利用	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット・SNS利用が関係する問題行動件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル講演会の実施 ・インターネット・SNS利用に関するアンケートの実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・警察からの間バイトの講話や全校集会でのSNS利用についての指導を行った。

		交通安全教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・交通違反、事故件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・原付通学生実技講習会の開催 ・通学方法別の状況把握のための校外指導の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から参加した実技講習会を継続した。 ・自転車、バイク通学時の転倒事故等が発生した。
人権教育の推進	人権尊重の精神	人権に関する理解の深化および豊かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権課題の解決に向けた学習の実施と差別をなくそうとする態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育講演会、人権教育LHRの実施 ・人権が尊重される環境づくり（授業、言語環境等） ・家庭訪問、面談を中心にした背景理解 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会、LHRを実施できた。家庭訪問や面談を行い、生徒およびその背景の理解に努めた。
		研修の充実と推進体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な校内研修の実施 ・年間1回以上の校外研修等への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会の活性化 ・校内研修の実施 ・校外研修への参加促進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会や研修も計画的に実施した。 ・校外研修は全員が積極的に学習していただいた。
	命を大切にすることを育む指導	自他の命を大切にすることを育む	<ul style="list-style-type: none"> ・「自他の命を大切にすることを育むHRやLHRでの取組の実施 ・生徒の感想等の取りまとめ事後指導を実施 ・教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会で指導案検討や情報共有をし、職員会議、研修等による共通理解 ・相談窓口等の周知 ・SC、SSW等の専門機関等と生徒・保護者職員の連携強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、研修等による共通理解を図った。相談窓口の一覧プリントを配付するなど周知を行った。SC、SSW等との連携も強化できた。
いじめの防止等	いじめ防止と早期の発見	「いじめ防止基本方針」及び「いじめを許さない」行動指標の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員、保護者の連携 ・学校独自に作成したSNSの使い方・言葉遣い等についての行動指標の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修等の充実 ・「心のきずなを深める月間」に各クラスで代議員が中心となった学習を実施 ・上の取組の中でSNSの使い方・言葉遣い等についての振り返りを実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・代議員を中心として、文化祭で発表した。 ・6月と11月、2月にアンケートを実施した。
		いじめ未然防止のための情報集約と組織的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員、保護者の意識向上によるいじめ未然防止、早期発見、早期対応の徹底 ・一人の教員が抱え込まない組織的な情報集約を実施、いじめ認知件数0とする体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のきずなを深める月間」の取組等を通してのいじめ防止のための意識向上 ・いじめ防止対策委員会の充実（定例開催、随時開催） ・職員会議、学年会等での情報集約の研修実施、共通理解をの深化を検証 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策委員会を適宜開催した。 ・情報集約担当者に連絡し組織的に対応することができるようになってきた。
特別支援教育	個々への適切な支援	特別な支援を必要とする生徒の把握・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画、指導計画の活用 ・生徒、保護者、専門機関との連携 ・診断テストの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画・指導計画の定期的な評価、検証（校内委員会、職員研修での共有） ・各種機関との情報交換 ・校内研修の充実 ・生徒を多角的に把握するために診断テストを検討し実施する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画の作成、研修での活用を行った。巡回相談、ケース会議などで外部専門機関と連携し、生徒の支援に生かすことができた。

	コミュニケーション能力を育む	コミュニケーションスキルやストレスに対処する力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・SST、心理教育の実践 ・コミュニケーションの機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流面談の実施 ・交流面談により得た情報を職員間で共有し生徒理解と指導に役立てる ・SST、ストレス対処法LHRの実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交流面談を実施し生徒の実態を多面的に把握することができた。特に1年生のストレス対処LHRにおいて、年度始めに実施することで仲間づくりに役立てることができた。
保健環境	保健管理意識の高揚	健康に対する自己管理能力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ・食後の歯磨きの徹底と治療が必要な生徒の治療促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほけん便りによる啓発と個別指導の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保健便りや文化祭で歯と口の健康に関する啓発を行った。治療が必要な生徒に夏休み前と冬休み前の2回、個別の保健指導を実施し、治療につなげた。
	環境整備	安全管理と主体的に環境美化に取り組む意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の実施 ・環境ISOの周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による安全点検を学期に1回実施 ・保健環境美化委員による環境ISOチェックの実施（週1回） 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休み明けに点検を実施し、不備には対応した。 ・ISOチェックや美化週間時の点検を通じて、環境美化意識の向上を図った。
地域連携・コミュニティスクールなど	学校運営協議会制度の充実	学校運営協議会の支援による特色づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の組織的・継続的な実施（年2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議内容を精選したうえで活動報告を行う ・担当者との連携を深め、活発な意見交換・情報交換を促進する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員から甲佐高校活性化の提案により協議会の果たす役割を十分に引き出した。
	地域防災および防災教育の確立	生徒・職員の防災に関する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携し、地域における防災についての理解を深める ・防災意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災訓練の実施 ・避難訓練と関連付けた防災教育の実施 ・スピーディな避難訓練のための生徒への事前指導の徹底 ・避難先の保存食、保存飲料の保管・試食の経験を行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災訓練は、本校生徒が地域住民との交流とともに、高校生としてできることを考える機会となった。

4 学校関係者評価

昨年度同様、それぞれの項目での評価は高く、今年度の取組も一定の成果を得ることができた。以下は学校関係者から出された評価についての総括的な内容である。

- ・甲佐高校に入学した生徒は中学校時に学校不適應や不登校だった生徒が比較的多いが、その半数が登校できるようになっている。少人数であることで手厚い指導ができていたことが伺える。この積み重ねが今年度も昨年度並みの志願者につながっている。
- ・甲佐町の魅力発信について、甲佐高校生の力が必要になる。甲佐高校のHPの充実や発信数は甲佐町も見習わなければならない。これまで以上の連携を行っていききたい。
- ・インクルーシブ教育などの新しい発想もあり、存続を含めて活発な意見が出ている。すぐにはいかないかもしれないが、町や時代のニーズに沿った学校であってほしい。
- ・公営塾あゆみ学舎との連携がかなり進んだ。生徒の情報共有のもとでの指導が深化している。
- ・今年度も、地域と連携しながら校内外にて学習の機会を多く持つことができた。生徒一人一人に応じた対応や指導を全職員の共通理解のもとで行うことができた。今後も、スクールポリシーのもと、本校の魅力を校内外に広めながら、在校生の満足度を高める教育と目標とする進路の実現を果たす教育活動を展開する。

5 総合評価

年度の重点目標についての評価

- ・今年度も基本的な生活習慣の確立と生徒支援をベースに、あらゆる教育活動の中で生徒個々に応じた指導とともに、主体的・協働的を養う教育を行った。
- 今年度は、「魅力企画・発信委員会」「探究活動委員会」「自学力向上委員会」という3つの委員会を立ち上げ、全職員で学校の活性化に取り組んだ。それぞれの検証により、成果を得ることができた。来年度もブラッシュアップした委員会活動にしていきたい。
- クリエイティブハイスクール指定事業や地域の企画行事に数多く参加し、本校の魅力を発信した。魅力推進に欠かせないHPのWeb更新も毎日のように行い、多くのアクセス回数を得た。
- このような全職員の共通理解のもとでの教育活動の成果が、新入生を昨年度並みに迎え入れることができた。学校の存続という現実突き付けられている状況に対して、職員が一丸となり、生徒の自己実現と学校の活性化を進める教育活動を展開した。

自己評価総括表に対する評価

- ・今年度も肯定的な意見が多く、概ね好評を得た。特に、魅力ある学校、信頼される学校、人権教育、特別支援、教育相談体制に関しては改善を重ねた結果、高評価となった。今後は、より教育活動の質を高め、生徒の進路目標達成を実現し、本校の魅力を発信する機会を多く持ちながら学校経営を進めたい。

6 次年度への課題・改善方策

今年度の本校の教育活動は概ね目標を達成しているものもあれば、まだまだ克服すべき課題が解決されていないことも多く、特に、以下の(1)(2)は生徒募集に深く係る項目として、取組の強化を継続する。

(1) 本校の魅力推進 校内外の教育活動の充実度+進路保障=生徒募集

- ① 県指定事業や地域行事への参加の内容を精査しながら、本校の魅力をいかに中学校や多くの人に伝えるかのPDCAを行う。
- ② 校内の学校行事をとおり、コミュニケーション能力や主体的、協働的能力の高まりを検証しながら魅力化を推進する。
- ③ 生徒の自学力向上のために導入した学習アプリの利活用を発展させ、生徒の学習意欲を引き出す。

(2) 地域連携の推進

- ① 県や郡との連携も行いながら、生徒の将来のデザイン力を高める。
- ② 本校内に設立されている甲佐町公営塾「あゆみ学舎」との更なる連携を進める。